

伏木港開港 120 周年記念事業の開催趣旨について

古い歴史を持つ伏木港は、明治 32 年 7 月 13 日に勅令により自由に外国と貿易のできる開港場に指定され、2019 年に開港 120 周年を迎える。

この間、伏木港は、藤井能三翁をはじめとする偉大な先人の方々のご努力の結果、高岡市はもとより、富山県、さらには北陸地方の経済発展に大きく貢献してきた。

近年、伏木富山港を取り巻く環境は大きく変わり、日本海側拠点港の選定において、総合的に機能強化を図っていくべき「総合的拠点港」として位置づけられ、日本海側港湾をリードし、対岸諸国の経済発展を引き込む役割を担っている。その一翼を担う伏木港は、「国際フェリー・国際 RORO 船」及び「外航クルーズ（背後観光地クルーズ）」の機能別拠点港としても選定されており、地域経済発展のための港湾物流・人流機能の向上が図られ、地域はもとより対岸諸国と日本海側ひいては太平洋側都市圏との結節点としての利活用が求められているところである。

一方、2018 年には、①新観光施設である「道の駅雨晴」が 4 月 25 日にオープン、②5 月 24 日、日本遺産「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」に旧秋元家住宅、現在の伏木北前船資料館を含む 9 件の文化財が追加認定、③6 月 1 日、伏木港周辺地域がにぎわい創出の拠点となる「みなとオアシス伏木」として国土交通省に登録されるなど、伏木の魅力が再認識されてきている。これに加え、平成 10 年から行っている国重要文化財勝興寺の大改修が、2020 年（平成 32 年）にいよいよ完成する予定であり、高岡の主要観光名所集積地の一つとなる機運がますます高まってきている。

よって、この開港 120 周年という歴史の節目の時をとらえ、記念事業を行うことにより、①富山県の経済を支えてきた伏木港のこれまでの歴史を振り返り、祝うとともに、今後の更なる発展を願う、②高岡市のウォーターフロント「海の玄関口」伏木港の意義及び伏木地区の様々な魅力を市民に再認識してもらい、産業振興や賑わいづくりなど環日本海地域の更なる発展に貢献する、③高岡市の未来を背負って立つ地元の子供たちに「みなとまち伏木」の愛着、誇りを醸成することを図るものである。

さらに、これを契機として、伏木地区が、物流・人流に加え、観光の拠点として、「高岡市活性化の主要エンジンの一つとしての重要な役割を果たしていく」ことを目的とするものである。